



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

1月号—No.320

2022.1.1

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【紅葉色(もみじいろ)】赤く色づいたカエデのようなあざやかな赤色。

カエデとモミジは同じ植物で、秋に葉が色づくことを意味する動詞「もみず」が由来となり、最も美しく紅葉するカエデをモミジと呼ぶようになった。赤色は寒さで増えた色素(アントシアニン)の色。古くから美しい色として愛され、照紅葉、谿(たに)紅葉、紅葉鐘(むしろ)などさまざまな呼び方で称されてきた。今ならさしずめ「スマホ紅葉」だろうか。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第22回「地域伝統芸能まつり」のご案内
令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

財団からのお知らせ.....7

令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」市町村公演報告、ガラコンサート開催のお知らせ／令和3年度「地域創造セミナー」事業スタート／令和4年度「リージョナルシアター事業」研修会報告／「特別寄稿 ビューポイント view point」No.7掲載について／地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」の活用状況調査ご協力をお願い／雑誌『地域創造』第47号発行

今月の情報.....10

地域通信

今月のレポート.....12

長野県大町市 北アルプス国際芸術祭 2020-2021

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 山本信一郎

明けましておめでとうございます。

知事、市町村長の皆様、ホール等関係者、アーティストの皆様をはじめ関係の皆様には年頭のご挨拶を申し上げます。

まず、何度も押し寄せる新型コロナウイルス感染症の波の下で、文化・芸術の大切な火を絶やさないう、それぞれのお立場でご尽力いただいておりますことに厚く敬意と感謝を申し上げます。文化・芸術のない生活がいかにも味気ないものか多くの人が実感したのではないのでしょうか。まだまだ先は不透明ということですが、皆様のご努力によるこの2年間弱の経験で、何とかコロナと付き合いながらやっていけるのかなと思います。

そういう中で、この令和4年は、地域の文化・芸術をコロナ以前の状況に回復させていくことはもちろん、新しい展望の下、みんなで文化・芸術をより活発に地域に浸透させていく再スタートの大事な時期と捉えなければと考えます。

知事、市町村長の皆様には、地域のホールや美術館等を含む文化・芸術分野の現況をレビューしていただき、豊かな文化・芸術を市民に届けたり、市民と共に創っていく役割を自らの地方団体が果たしているのか、どうやってレベルを上げていくのか、アフターコロナの思い切った青写真を描いていただきたいと願います。特に都道府県には、地域の文化・芸術の拠点としての機能を果たし、市町村と連携していく構想をはっきりと持ち、実行してほしいと願います。

ホール等には高い企画力と力を持ち、世界にも誇れる全国規模の立派なものもありますが、市民に密着した多くの中小都市のホール等やまだ力を発揮しきれていない県、中核的な都市のホール等に強く期待します。市民はそれぞれに陶芸、コーラス、絵画、俳句・短歌など文化に親しみ、高い素養を持っています。ホール等をより高い芸術を味わえる場として、市民の公共の場に育てる具体的なプログラムを展開していただきたいと願います。

そのためには、知事、市町村長の皆様の文化・芸術を大事にしていくという訴求力のある強い方針と先を見通した人材養成、また、ホール等の皆様には現状に安住することなく、ホール等のルネッサンスへのチャレンジを期待します。

当財団としては、地方団体等の抜本的な取り組みや事業の展開を可能な限り支援し、あらゆるご相談に建設的に対応し、最善の努力をしまいる所存です。

本年が安らかで良い年になりますようお祈りをしまして、年頭のご挨拶といたします。

2022年1月

2022年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末にかけて、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。

1月

- 市町村立美術館活性化事業
第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵「池袋モンパルナス 一画家たちの交差点」(山形県酒田市・酒田市美術館)／～1月10日
- 令和3年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・ランドアーク半蔵門)／1月21日
- 公共ホール音楽活性化事業
埼玉県川越市(川越南文化会館ジョイフル)／1月20日～22日
鳥取県境港市(境港市文化ホール)／1月25日～27日
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業
長野県茅野市 市町村公演(茅野市民館)／1月12日～15日
- リージョナルシアター事業
福岡県久留米市1回目派遣(久留米シティプラザ)／1月26日～29日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
福島県白河市Bプログラム(白河文化交流館コミネス)／1月12日～16日
大阪府堺市Aプログラム(フェニーチェ堺)／1月20日～23日
岩手県宮古市Cプログラム(宮古市民文化会館)／1月20日～23日
大阪府泉大津市Aプログラム(あすとホール)／1月27日～30日
- 地域創造セミナー事業
千葉県／1月19日、福井県／1月21日、岩手県／1月27日

2月

- 公共ホール音楽活性化事業
山梨県韮崎市(東京エレクトロン韮崎文化ホール)／2月3日～5日
和歌山県日高川町(日高川交流センター)／2月16日～19日
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業
長野県 ガラコンサート(キッセイ文化ホール)／2月26日
- 公共ホール邦楽活性化事業
茨城県つくば市(つくばカピオホール)／2月16日～19日
岩手県釜石市(釜石市民ホールTETTO)／2月24日～26日
- リージョナルシアター事業
福井県大野市2回目派遣／2月1日～4日
秋田県2回目派遣／2月7日～10日
大阪府枚方市(枚方市総合文化芸術センター)／2月11日～13日
福岡県久留米市2回目派遣(久留米シティプラザ)／2月21日～24日
静岡県掛川市2回目派遣(掛川市二の丸美術館)／2月26日～3月1日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
神奈川県茅ヶ崎市Aプログラム(茅ヶ崎市民文化会館)／2月2日～5日
山形県酒田市Cプログラム(酒田市民会館 希望ホール)／2月3日～6日
山形県鶴岡市Cプログラム(荘銀タクト鶴岡)／2月9日～12日
- ステージラボ豊橋セッション(穂の国とよはし芸術劇場PLAT)／2月15日～18日
- 第22回地域伝統芸能まつり(東京都・府中の森芸術劇場)／2月20日

3月

- 公共ホール音楽活性化事業
山口県岩国市(岩国市民文化会館)／3月4日～6日
福岡県中間市(なかまハーモニーホール)／3月11日～13日
 - 公共ホール現代ダンス活性化事業
愛知県小牧市Cプログラム(小牧市市民会館)／3月2日～5日
徳島県Cプログラム(藍住町総合文化ホール)／3月2日～5日
-

22回目のテーマは「翔 ～時を超えて、翔けるころろ～」

第22回 地域伝統芸能まつり



平成30年度 第19回地域伝統芸能まつり フィナーレの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能が一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能のすばらしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から190演目が披露されました。第22回目となる今年のテーマは、「翔 ～時を超えて、翔けるころろ～」。テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能8演目と古典芸能1演目をご紹介します。

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順)

行祭名または演目	地域または出演者	都道府県単位でみた場合の出演回数
なまはげ太鼓	男鹿市(秋田県)	9回目(3年ぶり)
今寺の面浮立	嬉野市(佐賀県)	6回目(6年ぶり)
行山流舞川鹿子躍	一関市(岩手県)	12回目(3年ぶり)
淀江さんこ節	米子市(鳥取県)	3回目(13年ぶり)
狂言『雷』	野村又三郎(和泉流)ほか	—
新城の囃子曲持	川崎市(神奈川県)	3回目(11年ぶり)
比婆荒神神楽	庄原市(広島県)	6回目(5年ぶり)
尾花沢花笠踊り	尾花沢市(山形県)	6回目(7年ぶり)
エイサー	沖縄市(沖縄県)	8回目(5年ぶり)

【日時】2022年2月20日(日)

午後2時30分開演(午後1時30分開場)

【会場】府中の森芸術劇場(東京都府中市浅間町1-2)

【入場】無料(事前申込制)

【主催】地域伝統芸能まつり実行委員会
一般財団法人地域創造

【後援】総務省、文化庁、観光庁、NHK、公益財団法人府中文化振興財団

【協力】名鉄観光サービス株式会社

◎応募方法 インターネット(パソコン、携帯電話等)

下記応募サイトからご応募ください。

<https://www.nhk-p.co.jp/chigeisai2022/>

(※郵便往復はがきでの応募はできません)

応募締切:2022年1月30日(日) 午後11時59分

◎お問い合わせ ハローダイヤル

Tel. 050-5541-8600(全日9:00~22:00)

*応募多数の場合は抽選となります。

*新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、入場整理券(座席券)により事前に座席を指定させていただきます。

*ご来場は当選された方と、申し込み時にご同伴者として登録された方に限らせていただきます。それ以外の方へのチケットの譲渡はお断りいたします。

*ご応募いただいたお客様の個人情報は、本事業の抽選、当落選通知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。また、公演後、会場にて新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる事象が発生した際に、必要に応じて保健所、自治体等の公的機関へご来場の方の情報を開示する場合を除き、お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。

*新型コロナウイルス感染症の感染状況や、荒天などの理由により公演を中止する場合があります。また、各地域の感染状況や移動制限などにより、ご来場をお控えいただくことがあります。最新の情報は、「地域伝統芸能まつり」のホームページなどでお知らせいたします。

*会場入口でサーモグラフィカメラ等により体温を測定させていただきます。37.5度以上の体温が測定された方は入場をお断りいたします。

*「地域情報PRコーナー」(出演団体の地域の物産展)は設置いたしません。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第22回地域伝統芸能まつり プログラム紹介

* 演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

なまはげ太鼓 (秋田県男鹿市)



なまはげ太鼓は、ユネスコ無形文化遺産にも登録された国指定重要無形民俗文化財「男鹿のなまはげ」と日本古来の「和太鼓」を融合させた古くて新しい男鹿独自の郷土芸能です。男鹿温泉交流会館「五風」での定期ライブ公演を開催している他、各種イベントにも積極的に参加しています。勇壮ななまはげが叩く迫力ある和太鼓の演奏は、唯一無比の感動と興奮を与えてくれます。

今寺の面浮立 (佐賀県嬉野市)



面浮立は、佐賀県が誇る民俗芸能のひとつ。笛・鐘・太鼓の囃子に合せ鬼面をつけて舞います。もともとは約450年前の戦(いくさ)における戦勝祝いの舞だったと言われていますが、現在は五穀豊穡への感謝をする神事芸能として受け継がれています。嬉野市に伝わる今寺の面浮立は、男衆の躍動感のある動と静を組み合わせた舞と、女衆の優美な鐘叩きの舞が調和した独特の演舞となっています。

行山流舞川鹿子躍 (岩手県一関市)



行山流舞川鹿子躍は、約300年前に宮城県南三陸町から一関市舞川に伝わった郷土芸能です。腰に太鼓をさげ、鹿の頭をかぶり、自ら唄い、太鼓を打ち鳴らし、背負った「ササラ」を揺らしながら勇壮に踊られるもので、五穀豊穡、念仏供養といった祈りが込められています。保存会会員らによる伝承活動が意欲的に行われ、若い継承者も育っています。岩手県指定無形民俗文化財。

淀江さんご節 (鳥取県米子市)



淀江さんご節は幕末頃に北前船の発達により、九州方面から伝わった民謡がお座敷芸として淀江に定着し、明治から大正にかけて一大ブームとなりました。軽快なテンポに合わせて左官屋さんが土壁を滑稽に塗りあげる「壁塗りさんご」や、「銭太鼓」、「傘踊り」など、明るさと躍動感が感じられる唄と踊りは、観る者を自然と笑顔にする力があります。米子市指定無形民俗文化財。

狂言「雷」 [出演]野村又三郎 (和泉流) ほか



一天にわかにかき曇り、鎌倉から奥州へ下るヤブ医者目の前に、轟音とともに空から落ちてきたのはナント!あの雷様ではありませんか。腰を打って痛がる雷様に、手当てをするヤブ医者の手には大きな針が握られています。さて、どうなりますか。

新城の囃子曲持 (神奈川県川崎市)



囃子曲持とは、米俵・酒樽など諸道具を使用し、囃子のリズムに合わせ力技と妙技を競う技芸です。「新城の囃子曲持」は明治の初め頃、農民の生活に取り入れられ、神事祭事などに欠かすことのできない庶民芸能として伝習されています。曲持ちは俵を使った基本形から様々な演目を持ち、観る人に迫力と楽しさと感動を与える技芸で、昭和52年神奈川県民俗芸能50選に選ばれ、翌53年には川崎市重要習俗技芸に指定されています。

比婆荒神神楽 (広島県庄原市)



比婆荒神神楽は、400年以上の歴史のある古式を留めた貴重な神楽で、広島県内の神楽において唯一国の重要無形民俗文化財の指定を受けています。庄原市東城町一帯で継承される古い神楽の形で、かつては四日四晩にわたって奉納されていました。この神楽は、鎮魂の要素を色濃く残しているのが特色といわれ、とくに託宣(神がかり)の神事を伝えていくことは全国的にみても貴重とされています。

尾花沢花笠踊り (山形県尾花沢市)



大正8年、尾花沢市のかんがい用水確保のため徳良湖築堤工事が行われ、その際に唄われた土搗き唄が「花笠音頭」の発祥とされています。また、その土搗き唄に合わせて、笠を廻して即興で踊ったものが「花笠おどり」の原型とされ、現在では尾花沢市のみならず、山形県を代表する文化のひとつとなっています。

エイサー (沖縄県沖縄市)



エイサーは、本土の盆踊りにあたる沖縄の伝統芸能のひとつ。仏典を広めるために発生した念仏踊りが、しだいに姿を変えていったものであり、地域ごとに独自の衣装・踊り・掛け声など特色を持つ伝統が受け継がれています。中でも本島中部の沖縄市では特にエイサーが盛んに踊られています。演者同士が踊りながら交差し、様々なかたちへ大胆に変化する演舞体系、ダイナミックな男女混成の踊りなど見どころ満載です。

●令和3年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」発表

令和3年12月、地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設に、以下の4施設を決定しました。

受賞施設の設置主体である地方公共団体、地域における創造的で文化的な環境づくりを目指し施設の運営に尽力されたスタッフの方々、施設を拠点に文化活動等を行う地域住民の皆様、誠におめでとうございます。地域創造では、受賞施設の活動を紹介させていただくことを通じて、全国の公立文化施設のさらなる活性化が図られることを期待しています。

◎令和3年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式 [日時]2022年1月21日(金) 14:00～14:50 [会場]グランドアーク半蔵門 華の間

調布市せんがわ劇場 | 東京都調布市

“まちの文化広場”として地域ブランドを向上

コミュニティ施設や保育園等が併設された地域密着型の小規模施設(121席)。舞台芸術系大学のあるまちの身近な劇場として、気軽に良質な音楽を鑑賞できる「サンデー・マティネ・コンサート」を継続的に実施。ピアノオーディション、演劇コンクールなどの育成・発信事業、公募による市民劇などにも取り組み、地域ブランドの向上に貢献した。

[運営]公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

[開館]2008年



調布市せんがわ劇場外観



「サンデー・マティネ・コンサート」(ピアノ:福田優花)

茅ヶ崎市美術館 | 神奈川県茅ヶ崎市

郷土美術館として“豊かな地域発見”に貢献

古くは別荘地であった地域に立地し、洋画家の萬鐵五郎、小山敬三、前衛書家の井上有一などゆかりのある多彩な作家の作品を収蔵。インクルーシブデザインの手法を取り入れた「美術館まで(から)つづく道」や、茅ヶ崎の夏の定番を取り上げた「アロハシャツ展」など、様々な切り口で展覧会を展開し、豊かな地域発見に貢献した。

[運営]公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

[開館]1998年



茅ヶ崎市美術館外観 撮影:Ben Matsunaga



「ヴィンテージアロハシャツの魅力」展
協力:SUN SURF

東海市芸術劇場 | 愛知県東海市

“芸術文化によるひとづくり”を推進

駅に隣接した再開発地区にある大規模複合文化施設。「未来をひらく文化創造拠点」をコンセプトに、子どもオーケストラ、合唱団、ダンスチームなどを育成。市民参加による「東海市紅白歌合戦」や名古屋フィルハーモニー交響楽団と連携したアウトリーチなどにも取り組み、市の直営施設として芸術文化によるひとづくりを推進した。

[運営]東海市

[開館]2015年



東海市芸術劇場外観



開館5周年記念事業「超ゴージャス!オペラいいとこどり全員集合!!」

滋賀県立文化産業交流会館 | 滋賀県

“伝統文化”の普及・振興に貢献

県東北部の文化と産業振興の拠点として開設されたイベントホール・小劇場・オフィスの複合施設。指定管理者制度への移行を機に、特設舞台・芝居小屋「長栄座」公演、古典芸能キッズワークショップ、邦楽専門実演家養成事業、小中学校を対象にした演奏家派遣事業「和のじかん」などに取り組み、地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献した。

[運営]公益財団法人びわ湖芸術文化財団 [開館]1988年



滋賀県立文化産業交流会館外観



特設舞台「長栄座」公演

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

- 令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」市町村公演実施団体(主会場/派遣アーティスト/日程)
- 長野県松川村(松川村多目的交流センター ずずの音ホール/ル・レーヴピアノ三重奏団/10月13日～16日)
- 長野県安曇野市(安曇野市穂高交流学習センター「みらい」/Modétro Saxophone Ensemble/10月27日～30日)
- 長野県飯山市(飯山市文化交流館なちゅら/Quatuor Élan/11月10日～13日)
- 長野県伊那市(ニシザワいなっせホール/Quatuor Élan/11月24日～27日)
- 長野県筑北村(筑北村本城農村環境改善センター/Modétro Saxophone Ensemble/12月15日～18日)
- 長野県茅野市(茅野市民館/ル・レーヴピアノ三重奏団/2022年1月12日～15日)
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ
芸術環境部 崎山・河野
Tel. 03-5573-4185
- 「地域創造セミナー」に関する問い合わせ
芸術環境部 梅村・藤原
Tel. 03-5573-4066

●令和元・3年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」市町村公演報告/ガラコンサート開催のお知らせ

10月から長野県内でスタートした公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業の市町村公演。今号では飯山市公演(11月10日～13日)、伊那市公演(11月24日～27日)についてご紹介いたします。

飯山市ではサクソフォン四重奏のQuatuor Élan(クワチュオール エラン)が市内の美術館やロッジ等を訪問し、サクソフォンの魅力や面白さを伝えるアウトリーチを実施しました。アウトリーチプログラムはさまざまな年代の方々が楽しむことができるような内容となっており、最終日のコンサートには多くの市民の方にご来場いただきました。

伊那市も飯山市と同じくQuatuor Élanが市内の小学校6校を訪問し、アウトリーチを実施しました。演奏後、子どもたちからは「迫力がすごかった」「楽しかった」といった声が挙がりました。

長野セッションの市町村公演は12月に筑北村(Modétro Saxophone Ensemble(モデトロ サクソフォン アンサンブル))、2022年1月に茅野市(ル・レーヴピアノ三重奏団)と続きます。事業内容に興味をお持ちの方は、ぜひ一度視察をしていただければと思います。

また、当事業の集大成となるガラコンサートに2022年2月26日に松本市のキッセイ文化ホール

(長野県松本文化会館)で実施します。長野県内の小学校等へのアウトリーチを通じて、地域との交流を図ることにより、得難い経験をしたアーティストたちの奏でる音楽をぜひお楽しみください。

◎ガラコンサート概要

[日時] 2022年2月26日(土) 14:00開演(13:30開場)

[会場] キッセイ文化ホール 中ホール

(長野県松本市大字水汲69-2)

[入場料] 全席自由:一般1,000円、U-25 500円、小・中学生無料(要整理券)

[出演] Quatuor Élan, Modétro Saxophone Ensemble, ル・レーヴピアノ三重奏団

[問い合わせ] キッセイ文化ホール Tel. 0263-34-7100



飯山市でのアウトリーチ(飯山市美術館)

●令和3年度「地域創造セミナー」事業がスタート

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりおよび文化芸術関係者の広域的な連携強化を目的として、都道府県が主催する研修会に対し、地域創造が講師を派遣する地域創造セミナー事業。今年度は北海道からスタートし、道内の14市町から受講者が集まりました。

北海道の地域創造セミナーでは、長野県文化政策課文化振興コーディネーターの野村政之さんに「AIR(アーティスト・イン・レジデンス)におけるアーティストの役割と地域の戦略」をテーマに講演いただきました。

まず「域外のアーティストが、地域に滞在して創作活動をする」というAIRの特色と、アーティストから見たAIR(よい環境で芸術活動を高める)と地域から見たAIR(観光、施設利用など地域振興策の一環)の違いを整理していただきました。そして長野県で開催されたNAGANO ORGANIC AIRの事例紹介では、地域の文化資源や多様な担い手を可視化し、アーティストと地域をマッチ

ングするコーディネーターの重要性を説くなど、演劇制作者と行政職員の2つの顔をもつ野村さんならではの話を伺いました。

受講者からは「実務で出合う事例や課題とマッチする内容だった」「ホスト側、アーティスト側、両方の立場の話が聞けて興味深かった」などの声が寄せられました。今年度は、千葉県、福井県、岩手県でも地域創造セミナーを開催予定です。



セミナーの様子(長野県の取り組みを解説する野村政之氏)

財団からのお知らせ

●令和4年度「リージョナルシアター事業」

○派遣アーティスト

- 多田淳之介
(東京デスロック主宰、演出家)
- 田上豊
(田上バル主宰、劇作家・演出家)
- 有門正太郎
(有門正太郎プレゼンツ主宰、演出家・俳優)
- 福田修志
(F's Company代表、劇作家・演出家)
- ごまのはえ
(ニットキャップシアター代表、劇作家・演出家・俳優)
- アドバイザー
- 内藤裕敬
(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕
(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)

○実施予定団体

- 山形県鶴岡市
(荘銀タクト鶴岡)
- 山形県酒田市
(酒田市民会館 希望ホール)
- 福島県白河市
(白河文化交流館コミネス)
- 横浜市
(横浜市民文化会館 関内ホール)
- 静岡県島田市
(島田市民総合施設プラザおおり)
- 大阪府泉大津市
(あすとホール)
- 徳島県
(徳島県郷土文化会館 あわぎんホール)

○問い合わせ

芸術環境部 栗林・田中
Tel. 03-5573-4124

●令和4年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

2021年11月15日(月)・16日(火)の2日間、令和4年度リージョナルシアター事業の実施予定団体と派遣アーティストが集まり、事業についてのオリエンテーションやディスカッション、企画打ち合わせを行う研修会を開催しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomによるオンライン研修会でしたが、今回は対面で研修会を開催することができました。

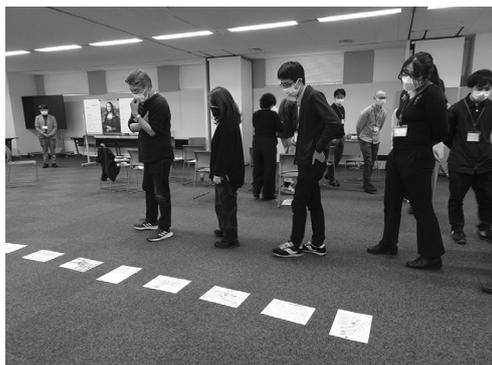
この事業では、地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチ等、地域独自のさまざまなプログラムを、派遣アーティストと実施団体が協働して企画することができます。研修会には、令和4年度事業実施予定の7団体から事業担当者12名が参加し、地域やホールがやりたいこと、課題、演劇的手法を使ったワークショップの効果や可能性などを、事業担当者と派遣アーティストとの対話を通して共有することのできる2日間となりました。

研修会の初日は派遣アーティストと事業担当者の顔合わせを行った後、当事業のアドバイザーである内藤裕敬さんのワークショップを体験しました。絵を見てタイトルをつけたり、音楽を聴

いた感覚を絵にしてみたりして、参加者が自由に想像して遊ぶという“教えないワークショップ”の効果を感じてもらいました。その後「事例紹介」として、派遣アーティストとアドバイザーから、ワークショップ事例やこれまでの成果や苦勞、事業担当者の役割や心構えについてお話いただきました。参加者からの質疑応答も同時に行い、ワークショップを継続していくことの重要性やコロナ禍で工夫した事例等についても話が及びました。

2日目は前日のオリエンテーションを踏まえて、派遣アーティストと事業担当者による企画打ち合わせを行いました。それぞれのホールのミッションや地域課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けて熱心な話し合いがグループごとに行われました。最後にグループごとの打ち合わせ経過の報告を行い、研修会は終了となりました。

今後、実施予定団体は、来年度の企画実施に向けて地域課題や地域資源のリサーチを続けながら、派遣アーティストとの打ち合わせを行っていきます。各地域で行われる来年度の企画実施にご期待ください。



左:内藤裕敬さんのワークショップ/右:グループワーク



●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.7掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。新たに舞踏家・振付家の田村一行氏にご寄稿いただきました(12月20日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column07.html>

○問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068



▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」の活用状況調査ご協力をお願い

当財団では、地方公共団体等が地域において自主的に実施する文化・芸術活動に対して財政的な助成を行う「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」を実施しています。

昨今、文化・芸術に対する住民の考え方や行政の取り組み方等が変わるなか、今後の助成事業等の参考にしたい、現在の活用状況について調査を行いますので、当財団ホームページの「お知らせ」からご回答よろしくお願い申し上げます。

回答締切：2022年1月14日(金)

●調査対象

- ①地方公共団体
- ②地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人、一般財団法人等(②を除く)のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これらに準ずるものを2分の1以上出資している法人

●回答ページURL

<https://www.jafra.or.jp/docs/8047.html>

●雑誌『地域創造』第47号を発行しました



文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』第47号を2021年12月17日に発行しました。今回の特集は、新型コロナウイルス感染症により公立文化施設などで移動型・集客型の事業が大きな影響を受けるなか、今後を見据え、集客型とは異なる取り組みとしてアーティストと地域をつなぐレジデンスを再考します。また、老若男女、障がいの有無を問わず参画できる文化・芸術の取り組みを例に、地域の人々が“よりよく生きる”ためのさまざまな可能性を探ります。座談会では、地域のアーティストとのつながりを育み、地産地消による取り組みにつながるアーティストバンクや、改めて注目される美術館のコレクションについて取り上げるなど、多彩な事例をご紹介します。

◎特集1「コロナの視座① レジデンス再考」

- 透明体育館きらきら／国際こども・せいねん劇場みやざき(宮崎県宮崎市)
- NAGANO ORGANIC AIR(長野県)
- ①新野だら実行委員会(阿南町)
- ②犀の角／のきた(上田市)

◎特集2「コロナの視座②

- well-being(よりよく生きる)」
- 島根県民会館「インクルーシブシアター・プロジェクト」(島根県松江市)
- 須賀川市民交流センターtette(福島県須賀川市)
- NPO法人スウィング(京都市)
- ◎空間のエスプリ—国際的事例のビジュアルレポート
- 最新デジタル技術で文化財の可能性を広げる「東京藝術大学スーパークローン文化財」
- ◎体験レッスン—公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授
- 新しい映画体験“爆音上映”を学ぶ(札幌市)
- ◎SCOPE—地域の注目事例レポート
- Reborn-Art Festival 2021-22(宮城県石巻市ほか)
- みまた演劇フェスティバル「まちドラ!」(宮崎県三股町)
- ◎座談会
- コロナの視座③ 地元の実演家とつながる
- コロナの視座④ 美術館のコレクションから考える
- ◎イラストSCOPE—伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート
- 八戸三社大祭(青森県八戸市)

◎海外STUDY

- アーティスト・コレクティブが育つ文化と地域性—インドネシアの事例

◎BOOK

『飛び出す! 公務員—時代を切り拓く98人の実践』

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部 岸
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部 藁科
Tel. 03-5573-4056

●雑誌『地域創造』に関する問い合わせ
芸術環境部 梅村
Tel. 03-5573-4066

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 藤原・梅村

●2022年3月号情報締切

2022年1月24日(月)

●2022年3月号掲載対象情報

2022年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●岩手県

岩手県民会館
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
Tel. 019-624-1173 本波敏
<http://www.iwate-kenmin.jp/>

いわてJAZZ 2021

岩手から文化を創造発信することを目指し、世界的ジャズミュージシャンによる「本物の音」と、県内ミュージシャンによる「岩手らしい音」を届けるジャズフェス。12回目の今年度は、開催を1月に延期して実施。小曾根真率いるビッグバンドをはじめ、大西順子カルテット、「いわてJAZZ 2021」スペシャルバンドが登場。
[日程]1月30日
[会場]岩手県民会館

●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

特別企画展 杉村惇作品展 存在と空間の伝説 ～色彩の韻律～

洋画家・杉村惇(1907～2001)は、第二次世界大戦で空襲を受けた東京から塩竈に移り住み、その後仙台に移るまでの約20年間、塩竈の風景や魚などを多数描いた。本展では、仙台市所蔵の晩年作品のほか、塩竈の思い出を綴った直筆原稿等を初めて展示。杉村と塩竈の深いつながりを明らかにする。
[日程]2021年11月20日～1月16日
[会場]塩竈市杉村惇美術館

●秋田県

秋田県立近代美術館
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855 藤井正輝
<https://common3.pref.akita.lg.jp/kinbi/>

令和3年度特別展 没後50年 勝平得之

秋田県出身の版画家・勝平得之

(1904～1971)は、絵師・彫師・摺師らが3つの工程を分業で行っていた浮世絵版画に対し、全工程を一人で行う「創作木版画」で制作することを主義としていた。そんな得之が生涯にわたって描き続けたふるさと・秋田の自然と、そこに生きた人々の姿を、作品約130点と関連資料で紹介する。

[日程]2021年11月20日～2月6日
[会場]秋田県立近代美術館

関東

●埼玉県川越市

ウェスタ川越
〒350-1124 川越市新宿町1-17-17
Tel. 049-249-3777 牧初実
<https://www.westa-kawagoe.jp/>

びっくり!! 魔法の城の音楽会

ワークショップ事業「ホールのお仕事体験 コンサートをつくってみよう!」に参加した小学4～6年生6人の企画・制作によるオリジナルコンサート。9月からプログラム決めやチラシ制作などさまざまな仕事を体験。出演は川越市施設管理公社登録アーティストのルロット・オーケストラ。オーケストラの楽器だけでなく、フライパンなどの日用品からつくられた創作楽器を披露する。

[日程]1月30日
[会場]ウェスタ川越



音響調整卓操作体験の様子

●東京都八王子市

八王子市学園都市文化ふれあい財団
〒192-0066 八王子市本町24-1
Tel. 042-621-3005 新田利徳

<https://hachiojibunka.or.jp/play/8youth-theater>

八王子ユースシアター2021: クロッシング

全国公募による3団体と、財団主催の演劇ネットワークぱちぱちによる演劇作品の創作過程を発信・アーカイブしつつ、配信による上演発表を行うプロジェクト。ディレクターの小堀陽平や4人の学生マネージャーらが創作を支援する。八王子に学生劇団の新たな交点をつくることを企図しながら、演劇の意義を見つめ直すプログラムとなっている。

[日程]公演:2021年12月18日～19日/上演映像配信:1月～2月
[会場]いちようホール(八王子市芸術文化会館)ほか

●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3252 瀬川美保
<https://www.shibu-cul.jp/>

さくらホールコンサート“Don't Stop The Music”一夜限りの若者たちの祭典2022

昨年、開館10周年を記念して結成されたオーケストラ「大和田祝祭管弦楽団」の出演を機に、コンサートマスターの林周雅が選りすぐったメンバーで構成した弦楽オーケストラが出演する。また同じく10周年記念コンサートに出演したピアノの實川風も出演。60分という短い時間の中で、弦楽器の生音をじっくり体感できる。

[日程]1月28日
[会場]渋谷区文化総合センター大和田

北陸・中部

●石川県金沢市

金沢芸術創造財団
〒920-0999 金沢市柿木畠1-1(金沢市第二本庁舎内)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 076-223-9898 (事業課) 牧野豪
<https://www.kagekiza.gr.jp/>

鈴木大拙・西田幾多郎生誕150周年記念 2022年世界初演 新作オペラ「禅」～ZEN～

禅の思想を世界に広めた思想家・鈴木大拙と哲学者・西田幾多郎の生誕150周年を記念して制作されたオペラが鈴木生誕の地・金沢で世界初演される。台本は元鈴木大拙館長で劇作家の松田章一、作曲に渡辺俊幸、オーケストラ・アンサンブル金沢が管弦楽を務める。共同制作の高崎芸術劇場でも2月に公開を予定。

[日程] 1月23日
[会場] 金沢歌劇座

●長野県松本市

まつもと市民オペラ実行委員会
〒390-0815 松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800 伊藤・丸山
<http://www.mpac.jp/>

まつもと市民オペラ第7回公演 『山と海猫』

公募で選ばれた市民合唱団と地元の名手で構成されたオーケストラと共に作り上げるオペラ公演。劇作家・演出家の加藤直が詩と台詞、演出を、NHK全国学校音楽コンクール課題曲なども手がける作曲家の信長貴富が作曲を担当する。佐川吉男音楽賞を受賞した前作『ちゃんちき』から4年、世界初演の舞台をお届けする。

[日程] 1月22日、23日
[会場] まつもと市民芸術館

●静岡県三島市

三島せせらぎ音楽祭実行委員会
〒411-0036 三島市一番町20-5
Tel. 055-976-4455 望月康隆
<https://www.mishima-youyouhall.com/>

三島市制80周年・文化会館開館30周年記念 三島せせらぎ音楽祭 YouYouせせらぎコンサート

「音楽でつながる未来へつなげる」をコンセプトに、日本のクラシック界を代表するトッププレイヤーが三島に集結。街を流れる「せせらぎ」のように上質なクラシック音楽で、三島市制と文化会館の周年記念を彩る。コンサートは「ふれあいステージ」と「ザ・クラシックステージ」の2部制で開催。音楽祭では、コンサートのほか、市内での吹奏楽クリニックや訪問コンサートも行う。

[日程] 1月16日
[会場] 三島市民文化会館

●浜松市

浜松市文化振興財団
〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
Tel. 053-451-1114 三谷奈葉子
<https://www.actcity.jp/>

アクト・ニューアーティスト・シリーズ 2021 No.131 外村理紗 (ヴァイオリン)

1995年から開催している新進気鋭の若手アーティストを紹介するコンサートシリーズ。ステージと客席がフラットである音楽工房ホールで行われ、アーティストの演奏を間近で聴けるのが特徴。今回は2018年のインディアナポリス国際ヴァイオリンコンクールで最年少ファイナリスト(第2位)となったヴァイオリニストの外村理紗が出演。

[日程] 1月9日
[会場] アクトシティ浜松

近畿

●滋賀県

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7152 古川恵理
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホール オペラへの招待 沼尻竜典作曲 歌劇『竹取物語』

初めてオペラを観る人もオペラ通も楽しめるシリーズ。今回は芸術監督の沼尻竜典が日本最

古の物語を原作に自ら台本を作成し、耳馴染みがよく親しみやすい音楽で綴った日本語のオペラをセミ・ステージ形式で上演する。コンサートやアウトリーチなどで県内ではお馴染みの専属オペラ歌手集団・びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演。

[日程] 1月22日、23日
[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●大阪府泉佐野市

泉佐野市文化振興財団
〒598-0005 泉佐野市市場東1-295-1 (1月11日以降: 泉佐野市市場東1-2-1)
Tel. 072-469-7100 本村政人
<https://www.cf-izumisano.or.jp/izumi-nomori/index.html>

泉の森 シンフォニックライブ 2022

2010年から行われている恒例の大阪交響楽団コンサート。初心者にわかりやすく、かつクラシック愛好家も満足できるプログラムを提供しているほか、公演に先立って指揮者などが地域の小学校へ向かい、児童を対象にレクチャーや演奏指導を行っている。

[日程] 1月30日
[会場] 泉佐野市立文化会館

●兵庫県伊丹市

伊丹市民オペラ公演実行委員会
〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30 (伊丹アイフォニックホール内)
Tel. 072-780-2110 澤野・孫
<http://aiphoenic.jp/>

第36回伊丹市民オペラ定期公演『アイダ』

伊丹市内の音楽家を中心に開催している伝統ある市民オペラ公演。市内外から公募したキャストが出演し、演奏にはプロ・アマ混合の伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団が参加。今回は『アイダ』を取り上げ、約80人

の市民合唱団も出演する。映像を駆使した演出で、「映像と音楽で魅せる新しいオペラ」を創り上げる。

[日程] 1月23日
[会場] 東り いたみホール (伊丹市立文化会館)

●奈良県橿原市

奈良県橿原文化会館
〒634-0005 橿原市北八木町3-65-5
Tel. 0744-23-2771
<https://kashibun.jp/>

葵トリオコンサート

奈良県の中南和地域における文化発信拠点として、良質な文化音楽を県民へ提供し、さらなる賑わいの創出に寄与することを目標としたクラシックコンサート。今回は県民に馴染みのある関西出身のアーティストが出演。多数の県民の来場を期待している。

[日程] 1月17日
[会場] 橿原文化会館

九州・沖縄

●宮崎県

宮崎県立芸術劇場
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 児島望
<https://miyazaki-ac.jp/>

Let's和の音♪『一人勧進帳』

これまで和楽器のワークショップをメインに開催してきた「Let's和の音♪」。今年度からは邦楽と他の伝統文化の関わりに焦点を当てた公演を3年シリーズで開催。第1弾は「邦楽と歌舞伎」と題して、三味線の歴史や歌舞伎との関係、歌舞伎十八番のひとつ『勧進帳』の魅力などを、長唄三味線方の杵屋邦寿が楽しく伝授する。公演前日には長唄のワークショップも開催。

[日程] 1月16日
[会場] メディキット県民文化センター (宮崎県立芸術劇場)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

長野県大町市 北アルプス 国際芸術祭 2020-2021



上: 神社の舞台にしめ縄を林立させたマナル・アルドワイヤンのインスタレーション
下: 2軒の家が“衝突”した持田敦子の作品

●北アルプス国際芸術祭 2020-2021
[会期] 2021年10月2日～11月21日
[主催] 北アルプス国際芸術祭実行委員会(実行委員長: 牛越徹大町市長)
[会場] 長野県大町市内「市街地」「ダム」「源流」「仁科三湖」「東山」の5エリア
[参加作家、作品数] 11地域・国の36組、37作品
[総合ディレクター] 北川フラム
[ビジュアル・ディレクター] 皆川明

●北アルプス国際芸術祭
2014年の前身イベント「信濃大町2014 一食とアートの回廊」を発展させる形で17年6月～7月に第1回を開催。第1回は14地域・国の作家36組が参加し、5万4,395人が来場した。第2回は20年初夏の予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため21年8月～10月に会期を延期し、その後アートの鑑賞会期は10月開幕に再延期した。ビジュアル・ディレクターの皆川明はブランド「ミナ ヘルホネン」デザイナー。第3回の開催について、牛越大町市長は「市民の声を聞いて検討する」(第2回閉幕式)としている。なお芸術祭実行委員会はアーティスト・イン・レジデンス事業「信濃大町あさひAIR」も運営し、国内外から作家を受け入れている。

長野県北西部に位置する大町市は標高3000メートル級の山々が西側にそびえ、雪解け水をもたらす豊かな水源でも知られる。ここで「水・木・土・空」をコンセプトに掲げ、2017年に第1回を開催したのが「北アルプス国際芸術祭」だ。越後妻有アトリエンナーレを手掛ける北川フラムが総合ディレクターを務め、第2回は20年初夏に予定していたが、コロナ禍のため2度延期し、第5波収束後の今年秋に開催した。その様子を11月14日、15日に取材した。

新宿駅から特急あずさで3時間15分。JR信濃大町駅に降り立つと、高い空の下に雪化粧した北アルプスの連峰が見えた。まず駅前のインフォメーション所で検温と連絡先の記入を済ませ、鑑賞パスポートとリストバンド、地元で取水した飲料水ボトルを受け取る。リストバンドは健康状態を確認された目印で、各会場で提示する。

今回の参加作家は前回制作された恒久作品を含め11地域・国の36組(うちパフォーマンスは3組)。市街地や仁科三湖、ダムがある山間部など趣が異なる5つのエリアにアート作品を展示していた。海外作家はコロナ前に下見を終えていたが、入国困難な時期が続き、一部はリモート制作や計画の変更を行った。とはいえ、見応えのある佳作が多かった。

マナル・アルドワイヤン(サウジアラビア)は、天照大神を祀る神社の舞台に地元の人から教わったしめ縄を多数吊り下げ、荘厳な空間を創出。エカテリーナ・ムロムツェワ(ロシア)は、「塩の道」の宿場町だったという歴史を踏まえ、移動をテーマに地域住民からさまざまなアイデアを集め、人々の姿を重ねた絵画や映像作品を盛蓮寺で展開した。子どもらが植えた50万本の竹ひごが色のグラデーションをなして田んぼを覆うヨウ・ウェンフー(台湾)のランドアート、廃屋2軒を断ち割って衝突させた持田敦子のダイナミックな作品。いずれも土地の歴史や自然、暮らしに対する洞察とユニークな視点を感じさせた。

地元ゆかりの作家も存在感があった。独自の「コイル折り」による大作群を披露した折り紙作家の布施知子、青木湖に現地で採れた水晶や

石を積み北アルプス山脈に見立てた杉原信幸は共に大町在住。ここで採集した200種類の植物や種を使い、タペストリーに仕立てた蠣崎誓はアーティスト・イン・レジデンス事業で大町に長期滞在した経験がある。

「水の奔流と山の森林、広い扇状地に育まれた圧倒的な自然の豊かさが大町の魅力で、山の神々と里に住む人間が出会った太古の気配も残っている。そうした要素に感応できそうな作家に参加を依頼した。作品制作はリモートによるものを含め、大勢の住民が協力してくれた。一時は開催が危ぶまれたが、最後まで諦めず実施へ漕ぎつけた牛越徹大町市長や作家、スタッフを称えたい」と北川。

筆者は第1回も取材したが、今回は幾つか変化も見えた。前回なかった地区にも作品が展示されて会場はより広域になり、地域の多様さを味わえた。また、中心部にある旧校舎を活用したのも今回の特徴で、布施ら4組の作品を展示し、市街地エリアの核になっていた。市街地で前回会場だった古い建物を住民有志が整備し、休息スペースや小道を設けたのも印象的だった。

実行委員会によると、会期中の来場者数は3万3,884人(速報値)。事務局の牛越秀仁・市担当係長は、「コロナでボランティアの参加は限定され、十分に広報もできなかったが、県内外から多くの人が訪れた。会期中は街中が活気づくので、応援してくれる市民や企業は増えている。『大町の良さを再認識した』との声も多く、市外に出た若者が友人を伴って帰郷することもあり、芸術祭がシビックプライドの醸成に役立っている。21年5月からは大町市に開業したサントリー天然水 北アルプス信濃の森工場も稼働し、今後の展開に期待している」と話す。

この規模の芸術祭とは思えない限られた予算のため、役場の職員が総出で会場管理や受付に立ち、什器や地図を手づくり。駅にも県の職員有志が来場者から寄せられた写真数百枚を組み合わせた「芸術祭の思い出」(原画は大町市出身のタレント・鉄拳)のパネルを展示するなど、そこそこに地元の温もりが感じられる芸術祭だった。(美術ジャーナリスト・永田晶子)